

【No.1】 P21 第3章 コラム 3.1

表 材料割増しと強度割増し		
土質安定処理を行う部位	舗装施工便覧 ^{※)}	日本道路公団
路 床	配合試験で求めた添加率に対し 15~50%割増 (改良厚 50 cm 未満の場合)	必要とする強度の 2 倍の強度に対する添加率を配合試験で求める
路 体	—	上部：同上 下部：必要とするコーン指数 q_c に対し 100 kN/m ² を上のせする ^{※※)}

※) (社) 日本道路協会；舗装施工便覧，2001

※※) 必要とするコーン指数 200kN/m² の場合は 300kN/m²，400kN/m² の場合は 500kN/m² となる。

表 材料割増しと強度割増し		
土質安定処理を行う部位	舗装施工便覧 ^{※)}	日本道路公団
路 床	配合試験で求めた添加率に対し 15~20%割増 (改良厚 50 cm 未満の場合)	必要とする強度の 2 倍の強度に対する添加率を配合試験で求める
路 体	—	上部：同上 下部：必要とするコーン指数 q_c に対し 100 kN/m ² を上のせする ^{※※)}

※) (社) 日本道路協会；舗装施工便覧，2001

※※) 必要とするコーン指数 200kN/m² の場合は 300kN/m²，400kN/m² の場合は 500kN/m² となる。

【No.2】 P44 第4章 表 4.6

表 4.6 土と安定材の混合に必要な最低添加量	
安定材の種類	最低添加量 (kg/m ³)
セメント系・生石灰	50
石灰系	30

表 4.6 土と安定材の混合に必要な最低添加量	
安定材の種類	最低添加量 (kg/m ³)
セメント系	50
石灰系	30

道路土工の土質安定処理技術 正誤表 (2/3)

【No.3】 P114 第6章 表 6.1.5

表 6.1.5 供試体作製および試験方法一覧 (上部路床)														
試験項目と名称		試験方法 ^{a)}	呼び名 ^{b)}	モールド内径 (cm)	ランマ一質量 (kg)	突固め層数 (層)	1層当りの突固め回数 (回)	許容最大粒径 (mm)	作製時の含水比	供試体数		養生条件	備考	
										(個/シリーズ)	(シリーズ)			
誤	塑性指数 I_p の改良	突固めによる土の締固め試験準用	JHS A 1210 (JHS 条件)	ES	15	4.5	3	92	37.5	w_n が w_{opt} 以上の場合は w_n w_n が w_{opt} 未満の場合は w_{opt}	1	3	セメント系安定材 3日空气中後 4日水浸(計 7日) 石灰系安定材 6日空气中後 4日水浸(計 10日)	3水準で配合設計を行う。(3シリーズ)
	コンシステンシー確認	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 (JHS 条件)	JGS 0811 「安定処理土の突固めによる供試体作製方法」で作製された供試体をほぐして試料土とする										
	管理基準設定	突固めによる土の締固め試験	JHS A 1210 (JHS 条件)	ES	15	2.5	3	92	37.5	—	7	1	—	
	安定処理土の六価クロム溶出試験 ^{d)}		JHS 118	ES-3	15	2.5	3	67	37.5	w_n	1	1	3日空气中後 4日水浸(計 7日)	配合設計の最大添加率で作製する。

注 a) 試験方法における () は、JHS 条件があるものを示す。
 b) JHS 地盤材料試験の方法による呼び名を示す。
 c) 六価クロム溶出試験対象となる安定材 (表 4.7) を用いる場合に実施する。

表 6.1.5 供試体作製および試験方法一覧 (上部路床)														
試験項目と名称		試験方法 ^{a)}	呼び名 ^{b)}	モールド内径 (cm)	ランマ一質量 (kg)	突固め層数 (層)	1層当りの突固め回数 (回)	許容最大粒径 (mm)	作製時の含水比	供試体数		養生条件	備考	
										(個/シリーズ)	(シリーズ)			
正	塑性指数 I_p の改良	安定処理土の六価クロム溶出試験準用	JHS 118	ES-3	15	4.5	3	67	37.5	w_n が w_{opt} 以上の場合は w_n w_n が w_{opt} 未満の場合は w_{opt}	1	1	セメント系安定材 3日空气中後 4日水浸(計 7日) 石灰系安定材 6日空气中後 4日水浸(計 10日) ^{c)}	3水準で配合設計を行う。(3シリーズ)
	コンシステンシー確認	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 (JHS 条件)	上記、供試体作製方法で作製された供試体をほぐして試料土とする										
	管理基準設定	突固めによる土の締固め試験	JHS A 1210 (JHS 条件)	E	15	4.5	3	92	37.5	—	7	1	—	無処理土と同様に扱う
	安定処理土の六価クロム溶出試験 ^{d)}		JHS 118	ES-3	15	4.5	3	67	37.5	w_n が w_{opt} 以上の場合は w_n w_n が w_{opt} 未満の場合は w_{opt}	1	1	3日空气中後 4日水浸(計 7日)	配合設計の最大添加率で作製する。

注 a) 試験方法における () は、JHS 条件があるものを示す。
 b) JHS 地盤材料試験の方法による呼び名を示す。
 c) 養生条件は、JGS 0811 「安定処理土の突固めによる供試体作製方法」(JHS 条件) 表-3-JHS における供試体養生方法の種類に示す試験方法のうち、ES-1 を準用する。
 d) 六価クロム溶出試験対象となる安定材 (表 4.7) を用いる場合に実施する。

【No.4】 P128 3行目

誤	正
F_c が 25%以下	F_c が 25%以上

【No.5】 P130 5行目、7行目

誤	正
ES-1	ES-3

【No.6】 P130 23行目

誤	正
3層 92回	3層 67回

【No.7】 P131 下から 4行目

誤	正
ρ_{dmax}	ρ_d

【No.8】 P132 下から 10行目

誤	正
6.1.4 ④ 材料試験 (無処理土)	6.1.4 ③ 材料試験 (無処理土)

道路土工の土質安定処理技術 正誤表 (3/3)

【No.9】 P132 下から 11 行目

誤	正
㊸ モデル施工計画	㊸モデル施工計画

【No.10】 P132 表 6.1.13

誤	正
(手順④)	(手順⑱)

【No.11】 P183 第 6 章 表 6.3.5

		表 6.3.5 供試体作製および試験方法一覧 (構造物裏込め A)												
試験項目と名称	試験方法 a)	呼び名 b)	モールド内径 (cm)	ランマ一質量 (kg)	突固め層数 (層)	1層当りの突固め回数 (回)	許容最大粒径 (mm)	作製時の含水比	供試体数		養生条件	備考		
									(個/シリーズ)	(シリーズ)				
塑性指数 I_p の改良	供試体作製	安定処理土の突固めによる供試体作製	JGS 0811 (JHS 条件)	ES	15	4.5	3	92	37.5	$w_p \geq w_{opt}$ 以上の場合 w_n $w_p < w_{opt}$ 未満の場合は w_{opt}	3	1	セメント系安定材 3 日空気中後 4 日水浸 (計 7 日) 石灰系安定材 6 日空気中後 4 日水浸 (計 10 日)	3 水準で配合設計を行う。 (3 シリーズ)
	コンシステンシー確認	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 (JHS 条件)	JGS 0811 「安定処理土の突固めによる供試体作製方法」で作製された供試体をほぐして試料土とする										
	管理基準設定	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210 (JHS 条件)	E	15	4.5	3	92	37.5	—	7	1	—	無処理土と同様に扱う
	安定処理土の六価クロム溶出試験 c)	JHS 118	ES-3	15	4.5	3	67	37.5	$w_p \geq w_{opt}$ 以上の場合 w_n $w_p < w_{opt}$ 未満の場合は w_{opt}	1	1	3 日空気中後 4 日水浸 (計 7 日)	配合設計の最大添加率で作製する。	
注 a) 試験方法における () は、JHS 条件があるものを示す。 b) JHS 地盤材料試験の方法による呼び名を示す。 c) 六価クロム溶出試験対象となる安定材 (表 4.7) を用いる場合に実施する。														
		表 6.3.5 供試体作製および試験方法一覧 (構造物裏込め A)												
試験項目と名称	試験方法 a)	呼び名 b)	モールド内径 (cm)	ランマ一質量 (kg)	突固め層数 (層)	1層当りの突固め回数 (回)	許容最大粒径 (mm)	作製時の含水比	供試体数		養生条件	備考		
									(個/シリーズ)	(シリーズ)				
塑性指数 I_p の改良	供試体作製	安定処理土の六価クロム溶出試験 準用	JHS 118	ES-3	15	4.5	3	67	37.5	$w_p \geq w_{opt}$ 以上の場合 w_n $w_p < w_{opt}$ 未満の場合は w_{opt}	1	1	セメント系安定材 3 日空気中後 4 日水浸 (計 7 日) 石灰系安定材 6 日空気中後 4 日水浸 (計 10 日) c)	3 水準で配合設計を行う。 (3 シリーズ)
	コンシステンシー確認	土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 (JHS 条件)	上記、供試体作製方法で作製された供試体をほぐして試料土とする										
	管理基準設定	突固めによる土の締固め試験	JIS A 1210 (JHS 条件)	E	15	4.5	3	92	37.5	—	7	1	—	無処理土と同様に扱う
	安定処理土の六価クロム溶出試験 c)	JHS 118	ES-3	15	4.5	3	67	37.5	$w_p \geq w_{opt}$ 以上の場合 w_n $w_p < w_{opt}$ 未満の場合は w_{opt}	1	1	3 日空気中後 4 日水浸 (計 7 日)	配合設計の最大添加率で作製する。	
注 a) 試験方法における () は、JHS 条件があるものを示す。 b) JHS 地盤材料試験の方法による呼び名を示す。 c) 養生条件は、JGS 0811 「安定処理土の突固めによる供試体作製方法」(JHS 条件) 表-3-JHS における供試体養生方法の種類に示す試験方法のうち、ES-1 を準用する。 d) 六価クロム溶出試験対象となる安定材 (表 4.7) を用いる場合に実施する。														

【No.12】 P305 下から 2 行目

誤	正
高炉セメント B 種 $M_a=53 \text{ kg/m}^3$ を採用した	高炉セメント B 種 $M_a=55 \text{ kg/m}^3$ を採用した